

新版 指導要文集

しんぱん

しどうようもんしゅう

だいにしょう

じっせん

第二章 実践

じみち

地道

しゆる 集

たいかい

みじん 積

しゅみせん

衆流あつまりて大海となる。

微塵つもりて須弥山となれ

にちれん ほけきよう しん はじ

にほんこく いったいいちみじん

り。日蓮が法華経を信じ始めしは、日本国には一滌一微塵

ほけきよう ににん さんにん じゅうにん ひやくせんまんおくにんとな

のごとし。法華経を二人・三人・十人・百千万億人唱え

つた みようかく しゅみせん だいねはん

伝うるほどならば、妙覚の須弥山ともなり、大涅槃の

たいかい ほとけ 成 みち

大海ともなるべし。仏になる道は、これよりほかに、ま

求

たもとむることなかれ。

せんじしやう

(009 撰時抄

じみち

地道 205 ページ 9 行)

おお かわ あつ たいかい ちい ちり っ

多くの川が集まって大海となり、小さな塵が積もりつもつて

しゅみせん

にちれん

ほけきよう

しん

はじ

にほん

くに

須弥山となります。日蓮が法華経を信じ始めたことは、日本の国に

ひと

ひと

みじん

ふたり

とつては一つのしずく、一つの微塵のようなものですが、二人、

さんにん

じゅうにん

ひやくせんまんおくにん

なんみようほうれんげきよう

とな

つた

三人、十人、百千万億人と南無妙法蓮華経を唱え伝えていく

みようがく

しゅみせん

だいねはん

さと

たいかい

ならば、妙覚の須弥山ともなり、大涅槃という悟りの大海ともなる

じようぶつ

みち

げんり

もと

でありましょう。成仏への道もこの原理のほかには求めはなりません。

ん。

ひやくそう す

いちがんないしひやくがん

いちがん

たとえば、百草を抹つて一丸乃至百丸となせり。一丸も

ひやくがん

とも やまい

じ

同

たと

たいかい

百丸も、共に病を治することこれおなじ。譬えば、大海

いったい

しゆる

そな

いつかい

ばんる

あじ

の一滯も衆流を備え、一海も万流の味をもてるがごとし。

しじようきんごどのごへんじ

ぼんのんじよう こと

(195 四条金吾殿御返事 (梵音声の事))

じみち

地道 1527 ページ 13 行

けんじん

ごじよう

くち

と

み

ふ

ま

み

賢人も、五常は口に説いて身には振る舞いがたし」と見え

そうろう

甲

ざ

さ

もう

て候ぞ。「この座をば去れ」と申すぞかし。

すしゅんてんのうごしよ

さんしゅざいほうごしよ

(210 崇峻天皇御書 (三種財宝御書)

じみち

地道

1594

ページー7行

露 積 かわ つゆつもりて河となる、河かつもりて大海たいかいとなる、塵ちりつもり
やま て山となる、山やまかさなりて須弥山しゅみせんとなれり。小事しょうじつもりて
だいじ 大事となる。

（
393 衆生身心御書 しゅじょうしんしんごしよ

地道 じみち
2046 ページ 4 行